

土木学会第 63 回海岸工学講演会にて研究発表を行いました(2016/11/16-18)

テーマ：災害科学，海岸工学，津波工学
 場所：大阪大学中之島センター（大阪府大阪市）

11月16日(水)～18日(金)の3日間，大阪大学中之島センター（大阪府大阪市）で土木学会が主催する「第63回海岸工学講演会」が開催されました。土木学会海岸工学委員会では，査読付きの論文集である「土木学会論文集 B2（海岸工学）」を編纂しています。海岸工学講演会は，この論文集に掲載された論文について発表会を行い，参加者との意見交換を行うものです。当研究所からは，学術講演会で16編の論文（うち，教員筆頭6編）が採択され，有働恵子准教授，サッパシー・アナワット准教授，大石裕介特任准教授（客員）（以上，災害リスク研究部門）が登壇し発表しました。各発表者の講演題目等は次の通りです：

- 山下啓，○柿沼太郎，ほか：表面波・内部波共存場における孤立波解
- ○高村まや，有働恵子，ほか：地中レーダ（GPR）を用いて把握した津波後の堆積構造の検証
- ○戸川直希，佐藤翔輔，今村文彦，ほか：津波避難訓練を繰り返すことによる効果の検証—宮城県亘理町の事例—
- ○Panon Latcharote, Anawat Suppasri, Fumihiko Imamura, ほか：Effect of breakwaters on reduction of fatality ratio during the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami
- ○平川雄太，佐藤翔輔，今村文彦，ほか：津波碑と津波浸水域の位置・対応関係と人的被害に関する考察—岩手県沿岸の事例—
- ○長谷川夏来，サッパシーアナワット，今村文彦，ほか：浸水深と建物被害率を考慮した東日本大震災における石巻市での人的被害要因の分析
- ○佐藤兼太，越村 俊一：多緩和時間モデルを用いた格子ボルツマン法による自由表面流れ解析の高精度化
- ○有働恵子，武田百合子，ほか：日本全国の河川から海岸への土砂供給ポテンシャルと砂浜侵食との関係
- ○古屋敬土，越村俊一，ほか：緊急地震速報を用いた二段階多数津波シナリオ解析による最悪シナリオ即時推定
- 有働恵子，○武田百合子，越村俊一：DSMの半自動作成による2011年津波時の沿岸被害把握の試み
- ○井上拓也，越村俊一，ほか：GNSSによるリアルタイム断面推定情報の津波解析への適用手法の検討
- 今村文彦，○岩間俊二，ほか：修正された東北地方太平洋沖地震津波モデルによる福島第一原発サイトへの影響再評価
- 井上拓也，○阿部孝志，越村俊一，ほか：多角形領域接続・MPI並列による広域津波解析の効率化
- ○大石裕介，今村文彦，ほか：津波解析における信頼性の高い市街地浸水モデルに関するスパコンを用いた検討
- ○大平浩之，林晃大，山下啓，今村文彦：宮城県岩沼市における海岸林を活用した多重防御の津波被害軽減効果
- ○Anawat Suppasri, Panon Latcharote, Shinji Toda, Fumihiko Imamura, ほか：Tsunami hazard assessment for the Arabian Gulf from earthquakes and surface landslides

著者名は，筆頭者と研究所構成員のみ記載。下線は研究所構成員



有働 恵子准教授



サッパシー アナワット准教授

文責：山下啓，林晃大（寄附研究部門），佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）